2021.05.11

スクール・コミュニティクラブ*としての「ひらの倶楽部」

大阪教育大学附属高等学校平野校舎
松田雅彦

* Copyright © 2021 ひらの倶楽部

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュール

	2020（R2）	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）～
国	部活動指導員の配置支援				
	地域スポーツ・文化環境の整備の推進				
	教師の兼職兼業に関する整理				
	地域部活動・合同部活動を推進するための実践研究の実施（保護者の費用負担、自治体の減免措置等、国による支援方策の検討を含む）				
都道府県・市町村	活動時間の適正化の推進				
	地域スポーツ・文化環境の整備の推進				
		教師の兼職兼業による地域部活動への参画			
学校体育団体・競技団体・文化芸術団体	地方大会の実態把握	地方大会の在り方の整理		生徒にとって望ましい合理的な地方大会の推進	
学校の働き方改革関連	給特法一部施行	給特法施行	教員勤務実態調査	調査結果を踏まえた給特法改正の検討	
	超勤上限指針の策定・運用				

部活動改革の全国展開

- 休日の部活動の段階的な地域移行
  （休日の部活動の指導を望まない教師が部活動に従事しない環境の構築）

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革　概要

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた**人間形成の機会**や、**多様な生徒が活躍できる場**である。
- ✓ 一方、これまで部活動は**教師による献身的な勤務**の下で成り立ってきたが、休日を含め、**長時間勤務の要因**であることや、**指導経験のない教師にとって多大な負担**であるとともに、**生徒にとっては望ましい指導を受けられない**場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「**部活動を学校単位から地域単位の取組とする**」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ **部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務**であることを踏まえ、**部活動改革の第一歩**として、休日に教科指導を行わないことと同様に、**休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境**を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き**休日に指導を行うことができる仕組み**を構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、**休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境**を整備

具体的な方策

Ⅰ．休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

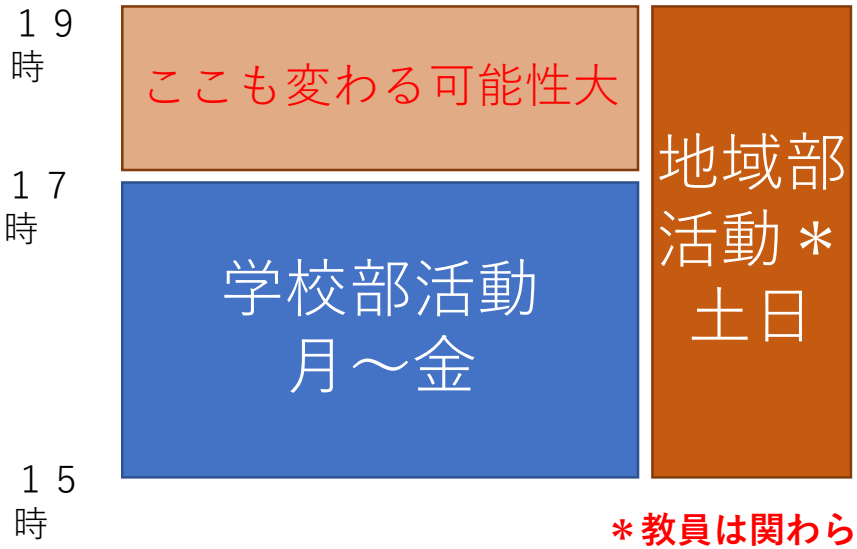
- **休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保**
  （育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- **保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等**と**国による支援**
- **拠点校（地域）における実践研究**の推進と**その成果の全国展開**

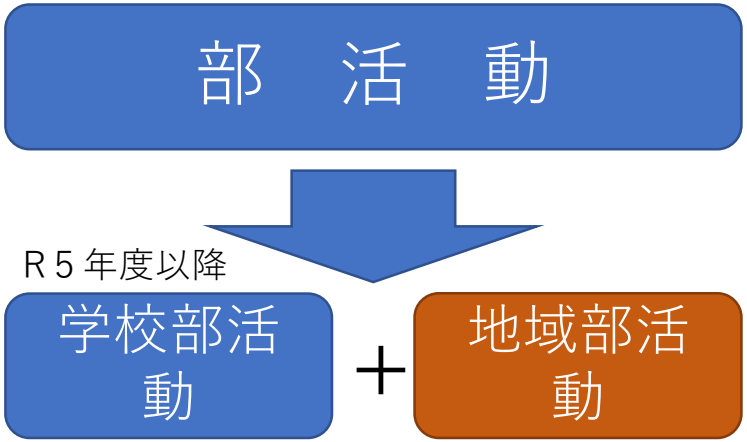
Ⅱ．合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との**合同部活動の推進**
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となる**ＩＣＴ活用の推進**
- 主に**地方大会の在り方の整理**（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。
※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

変わる部活動　～　R5年度から段階的に移行　～





＊教員は関わらない
＊付添手当も出ない

メリット

- 自分たちで自由にできる
- 別の活動もできる（いろいろできる）
- 専門的指導者に教えてもらえる

デメリット

- 地域で面倒を見てくれる団体が必要
- 別途、費用が必要（保険代・指導者謝金）
- 生徒自身が自律・自立する必要がある

地域部活動の受け皿(人と組織)が必要

地域部活動制度の導入
～　具体的にどう変わるのか　～

	学校部活動(学校教育活動の一環)	地域部活動(学校・地域教育活動の一環)
指導者	教員・部活動指導員	各団体に登録した指導者（休日に指導したい教員はこの団体に登録する）
責任の所在	学校長･教育委員会	各団体
活動費用	学校が負担（一部必要経費を各自が負担）	受け皿団体が負担 (指導者謝金・保険料・施設使用料等を結果として各自が負担することとなる)
施設使用料	無料（学校教育活動一環のため） 「部活動は、生徒会活動の一環であり、生徒会の下部組織である。そのため、みんなが関わる可能性がある。生徒会および部活動は、児童・生徒の自発的･主体的な活動であり、その組織は自治活動として自律的に運営される。このような活動の中で児童･生徒は共生の重要さやルールやマナー・エチケットなどを学ぶこととなる。」	有料（地域団体） （学校・地域教育活動としての目的と学習内容が明確であり、みんなが関わる可能性のある組織の場合は減免） ＊　全生徒のニーズを捉えて事業を起こせる場合は減免の可能性あり ＊　単一種目の活動である場合には「みんな」が関わる可能性が薄くなるため、減免はそぐわない。
連絡・調整	教員と生徒	各団体と学校・教員 （非常に煩雑になる）

官民公私の関係と地域部活動の受け皿としての地域スポーツ団体の立場

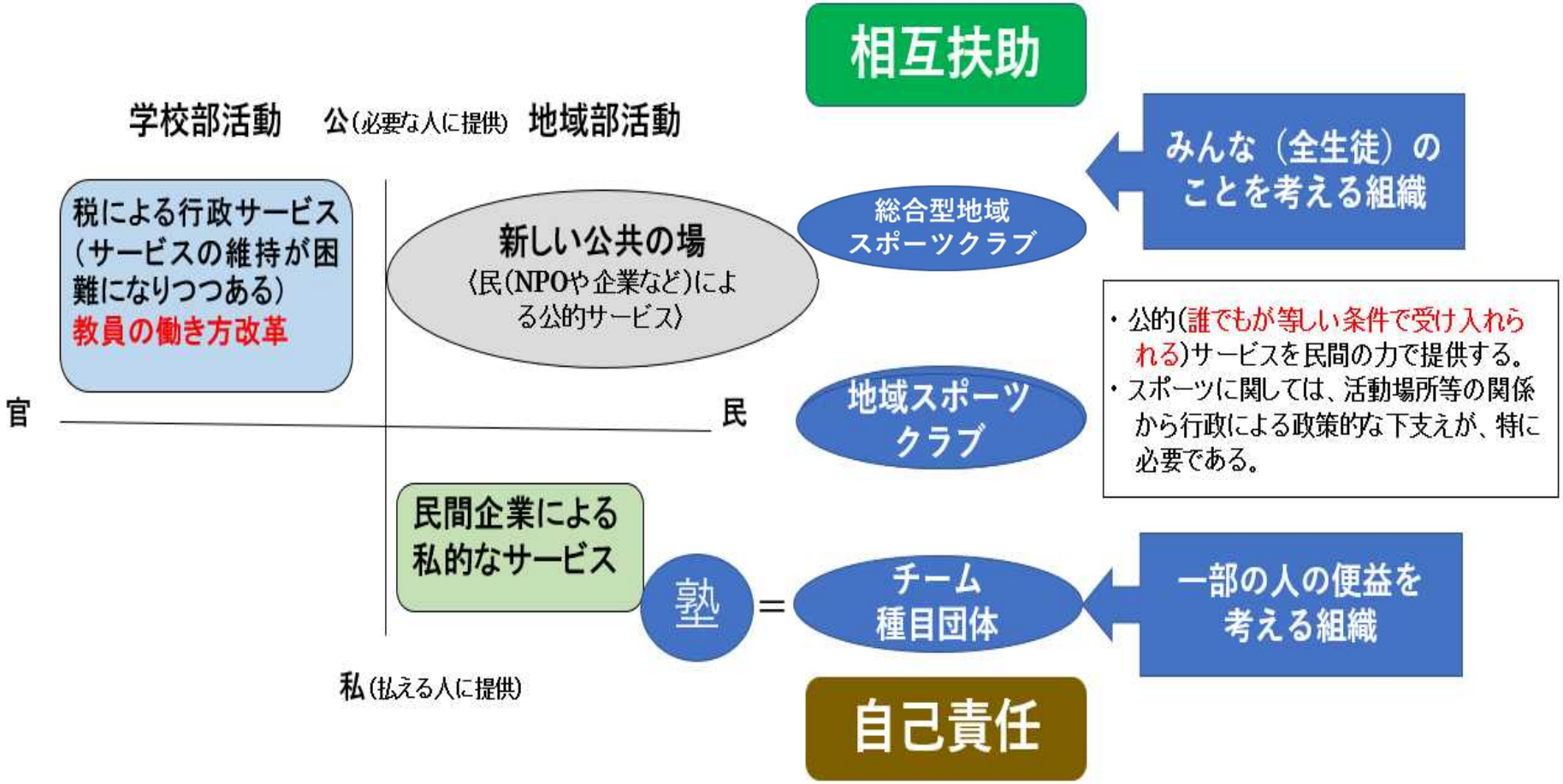


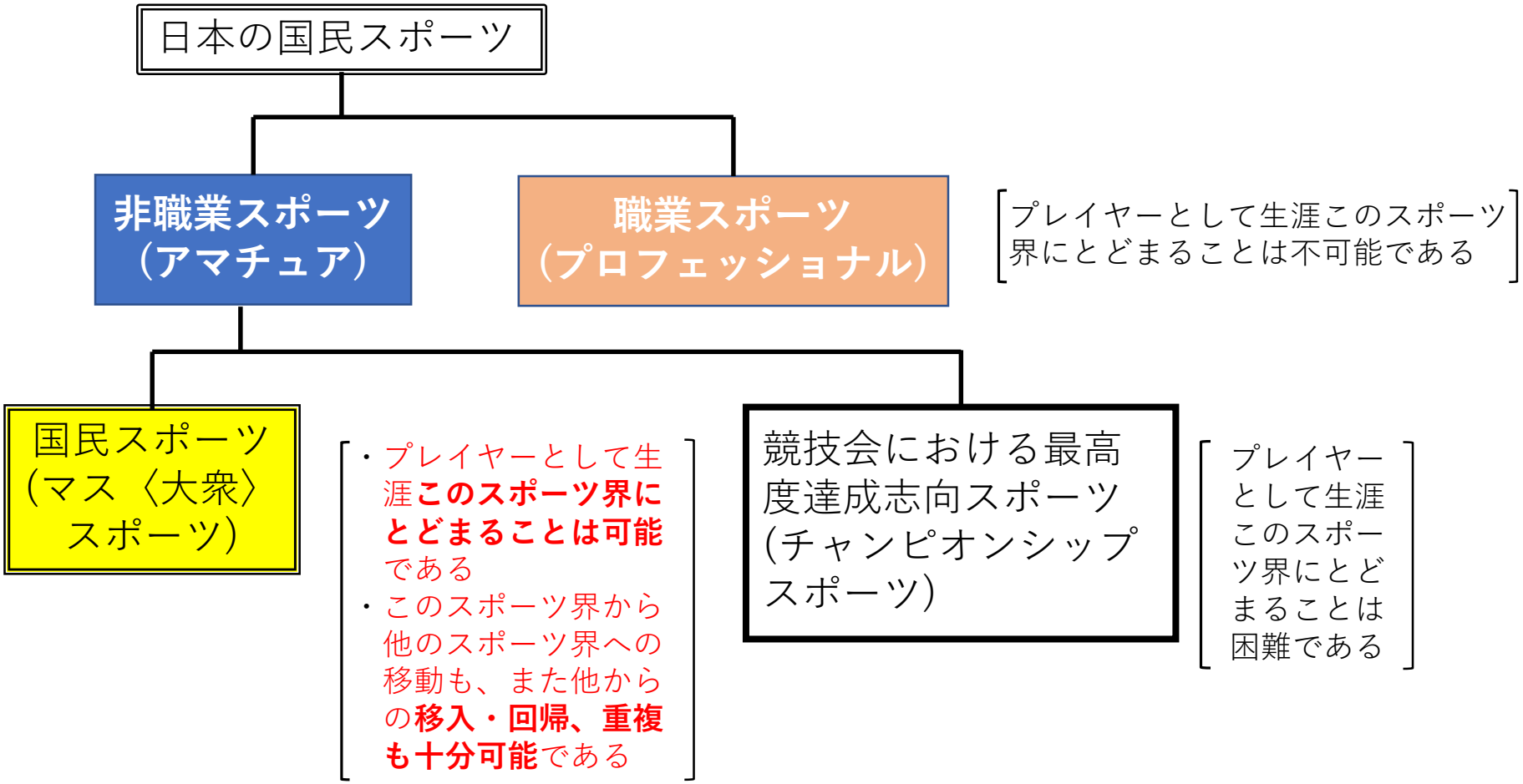
図1. 民による公的サービスの提供

＊ 熊坂賢次による官民公私モデルをもとに松田が作成

部活動が「私的なサービス」となると費用を払える人だけがスポーツや芸術・音楽という文化を享受できる国となる

「払える人への私的サービス」としての部活動

- スポーツを進学や就職の手段にすることに関してはスポーツの本質とはずれている
- 現実にスポーツを進学や就職の手段としてして考えている人も一定存在する
- 手段としてスポーツを考える場合には、「払える人とへの私的サービス」としてあってもかまわない
- その場合は、塾が学校で活動するのと同じく「施設使用料満額」「学校施設を占有しない」というルールのもとで活動すべき
- 本来の部活動は「必要な人への公的サービス」であるべき
- 現状の部活動のあり方を追従するのではなく、本来の部活動のあり方として見直すチャンス

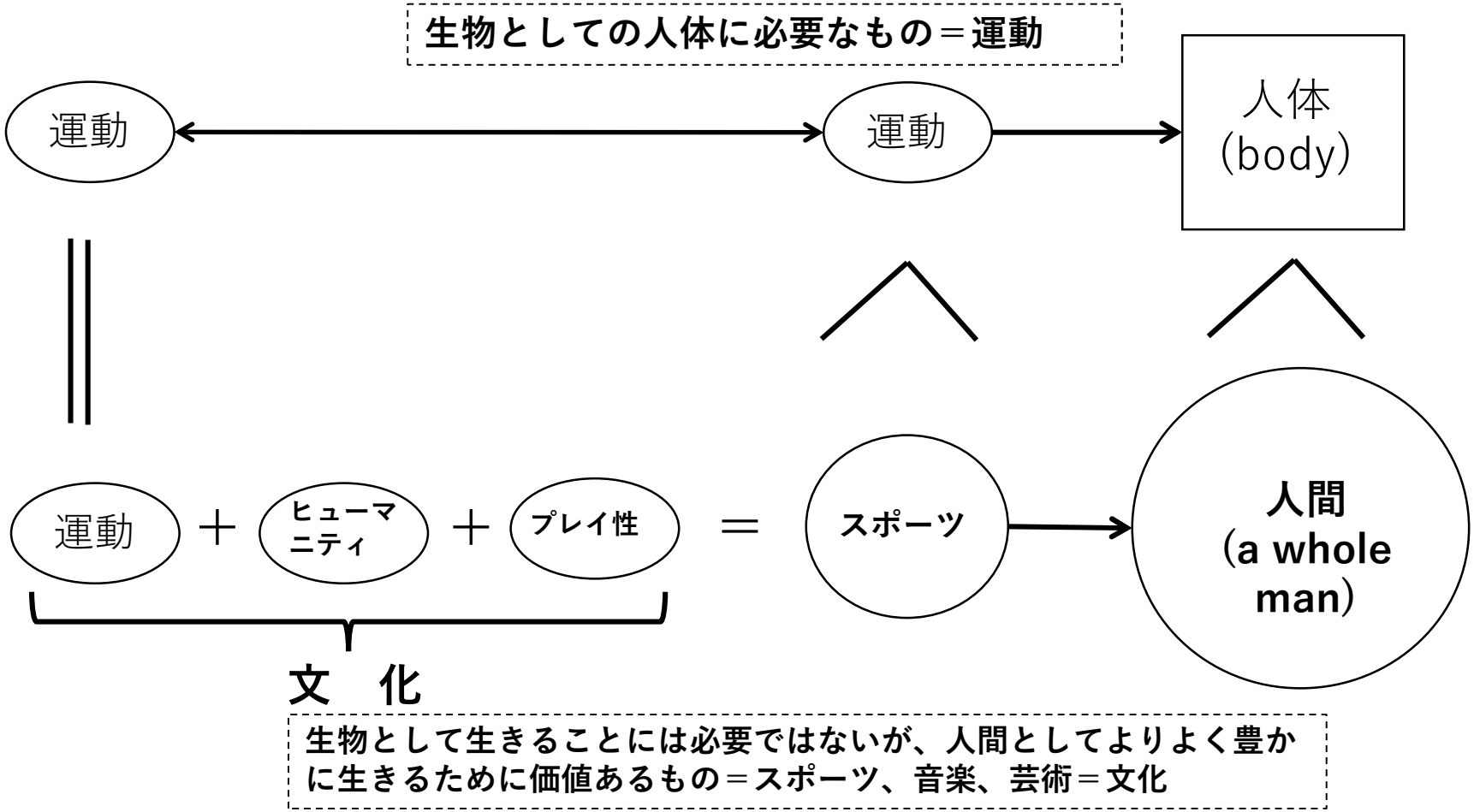


国民スポーツの発展
＝　スポーツ参与・実践者の量的拡大（スポーツに関わる人が増える）
×質的充実（主体的・自律的に関わる：集団的自治能力が問われる）
×時の経過［連続性］（一過性でなく、生涯にわたる関わりを継続する）

図2.　「国民スポーツの発展」について

（［「スポーツに遊ぶ社会に向けて」島崎 仁1998：107］の図に松田が図を再構成および加筆）

スポーツ・音楽・芸術の指導者はどんな社会をめざすのか？



（注）　スポーツは単なる筋肉運動ではなく、ヒューマニティやプレイ性を要素として、心身一如のホモ・ルーデンスとしての人間が、よりよく生きる(ｗｅｌｌ-ｂｅｉｎｇ)ために創造、分有、伝播する行動の諸結果の総合体、すなわち文化である。（島崎）

図3.　運動－スポーツの関わりからの文化説明モデル

（［「スポーツに遊ぶ社会に向けて」島崎 1998：31］の図に松田が破線囲みの内容を加筆）

地域部活動制度導入へ向けた対応

受け皿の見込みがある学校

- コミュティスクール
- 体育･スポーツ協会
- 総合型地域スポーツクラブ
- 各地域スポーツ団体
- 各地域の芸術･音楽団体
- 生涯学習団体

　　ｅｔｃ．

受け皿の見込みがない学校

- ピンチはチャンス
- 既存の組織のしがらみなく解決策をだすことができる
- 自分の学校で地域部活動受け皿の団体をつくる

　　→Hiranoモデル

総合型クラブだけでは、「地域部活動」は担えない

↓

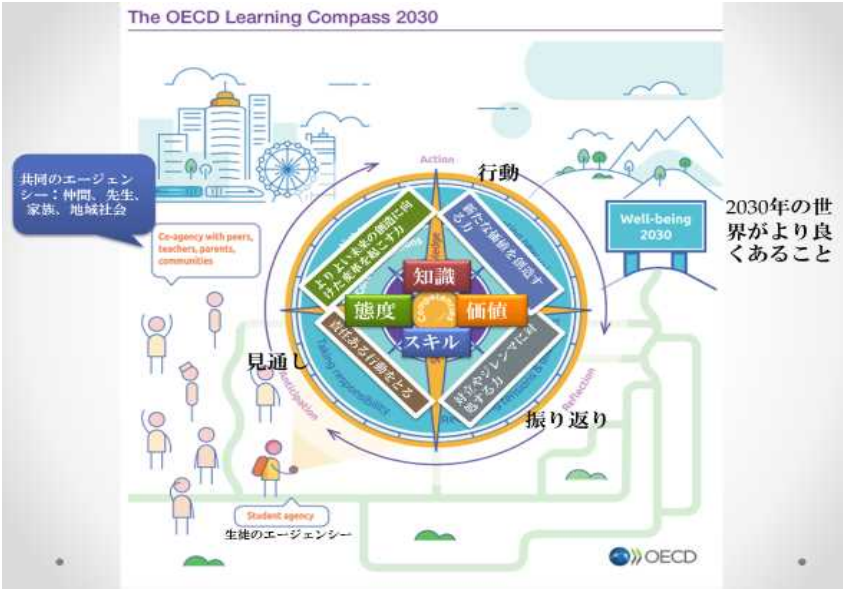
吹奏楽部、美術部、ホームメイキング部、生物部、ECCなど多彩な活動がある

総合型地域スポーツクラブから
コミュニティ・スクールとしての「ひらの倶楽部」へ

- 部活動はスポーツ分野だけではなく、音楽・芸術・学問分野もある
- スポーツ部門だけでは組織化すると一部の生徒のための組織となる
- 部活動の意味や意義を考えると生徒会による自治、生徒の自律的活動が重要である（本来の生徒会や部活動の指導のあり方を考えるべき）
  - ⇒ 生徒会(クラブ)および部活動指導のあり方改革
  - ⇒ 体育の授業改革・生徒の意識改革へ（自発的・主体的活動へ）
  - ⇒ 学習観・コンピテンシー論
- 「みんな」のことを考える組織でないと学校との協働はむずかしい
- 学校で実施が難しい学習を倶楽部で実施できる仕組みとする
- 全く外部の組織となると保護者の理解を得られにくい
- 連携する団体が多くなると、連絡・調整の業務が煩雑となる
- 組織化には学校・地域・家庭の三者にとっての共通目的が必要となる
  - ⇒ スクール・コミュニティ（学びの共同体）へ

コミュニティスクール(CS)としてのクラブ

1．「総合型地域スポーツクラブ」の枠組みでは小さい(「地域部活動問題」は一部分)
2．今後の世界像（VUCA：変化のしやすさ、不確実さ、複雑さ、曖昧さ）を生き抜く力を育てる
3． Well-Being2030の実現（みんながよりよく生きる世界）にむけてエージェンシーを育む
4．はじめは小さく生んで、後々大きく育てていきたい



ひらの倶楽部⇒CSへ

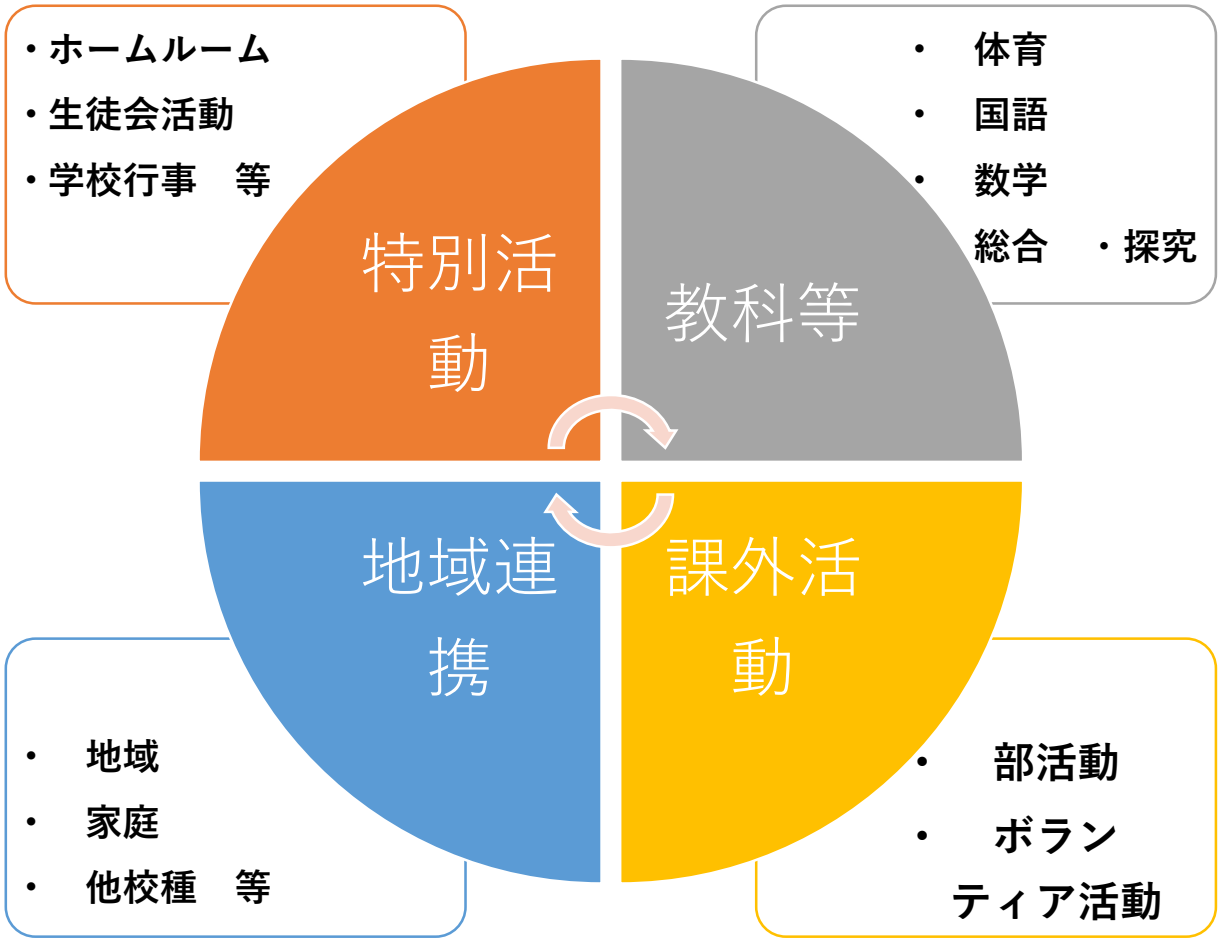
・音楽
・芸術
・学問
・さまざまな体験活動

総合型地域スポーツクラブ

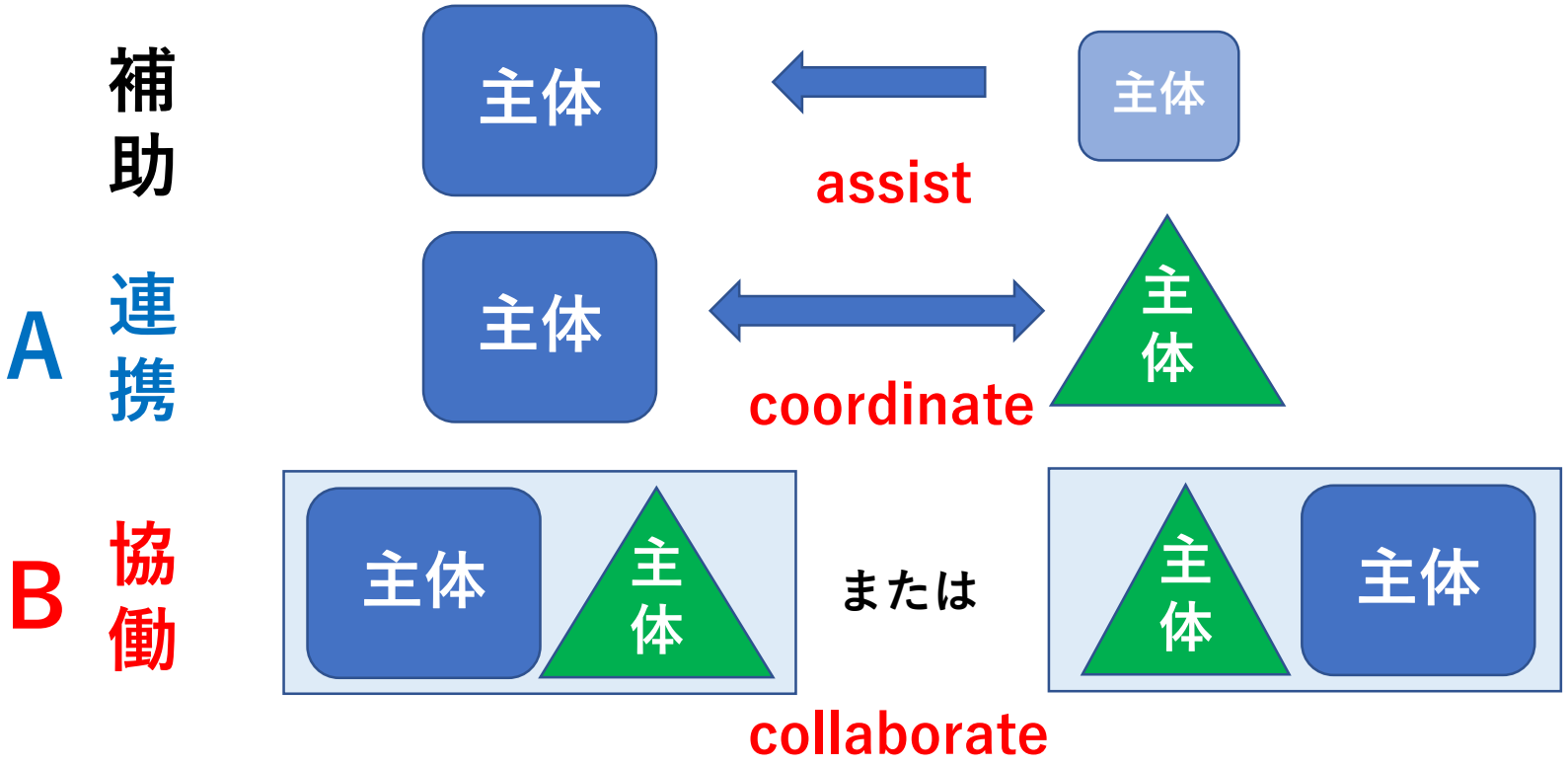
＊エージェンシー「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」
＊自発性などは一歩間違えば、自分自身で行動してさえいればなんでもいいということにつながりかねないが、エージェンシーは自分のことだけでなく、他者や社会とのつながりの中で育まれるモノである

参考：白井俊「OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来」ミネルヴァ書房、2020.12

スクール・カリキュラム
～学校全体を視野においた学びのカリキュラム～



補助/連携/協働の関係性

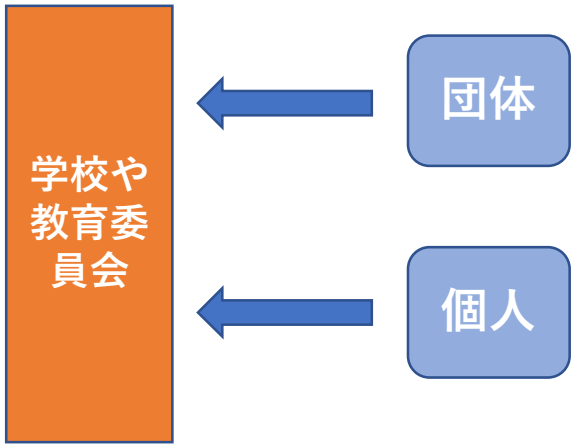


東京学芸大学副学長松田恵示氏　講演資料に松田が加筆（R3.1.09本校にて実施）

学校との連携・協働のスタイル①

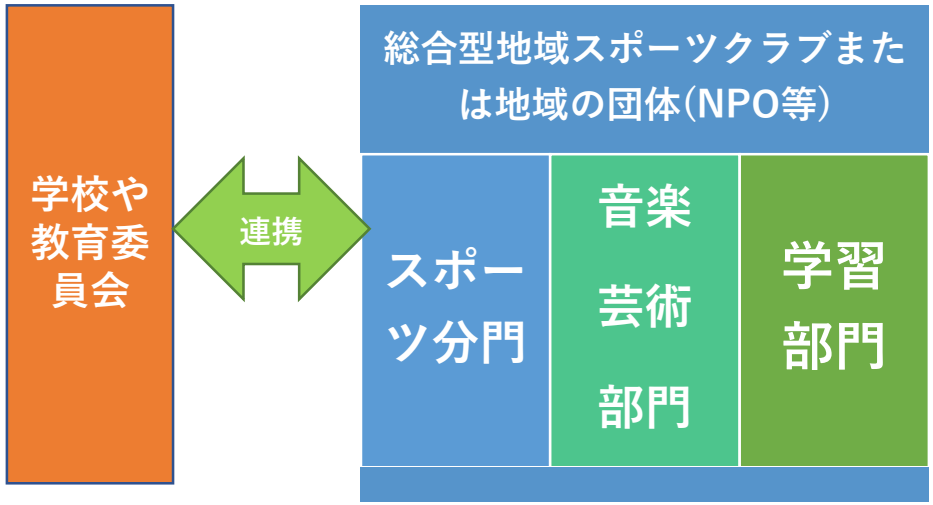
現状；補助型：assist

外部団体が学校のお手伝いをする



A:連携型：coordinate

外部団体と学校が連携する

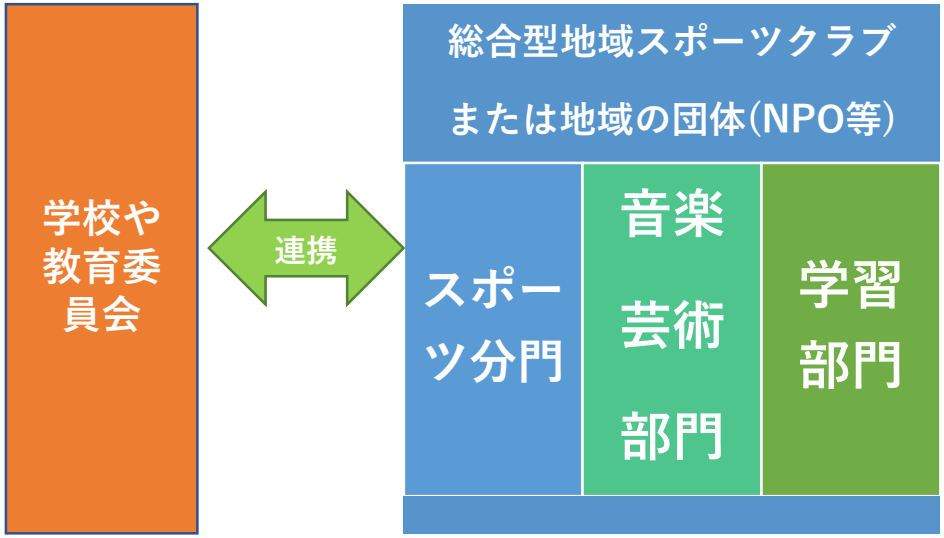


例：地域の団体が地域部活動に参画する団体をとりまとめて学校と連携する
（実際は連携のとりまとめは学校となる可能性が大）

学校との連携・協働のスタイル②

A:連携型：coordinate

同じ目的を持つ人たちがつながって、協力し合ってものごとを行う



例：地域の団体が地域部活動に参画する団体をとりまとめて学校と連携する
（実際は連携のとりまとめは学校となる可能性が大）

B:協働型：collaborate

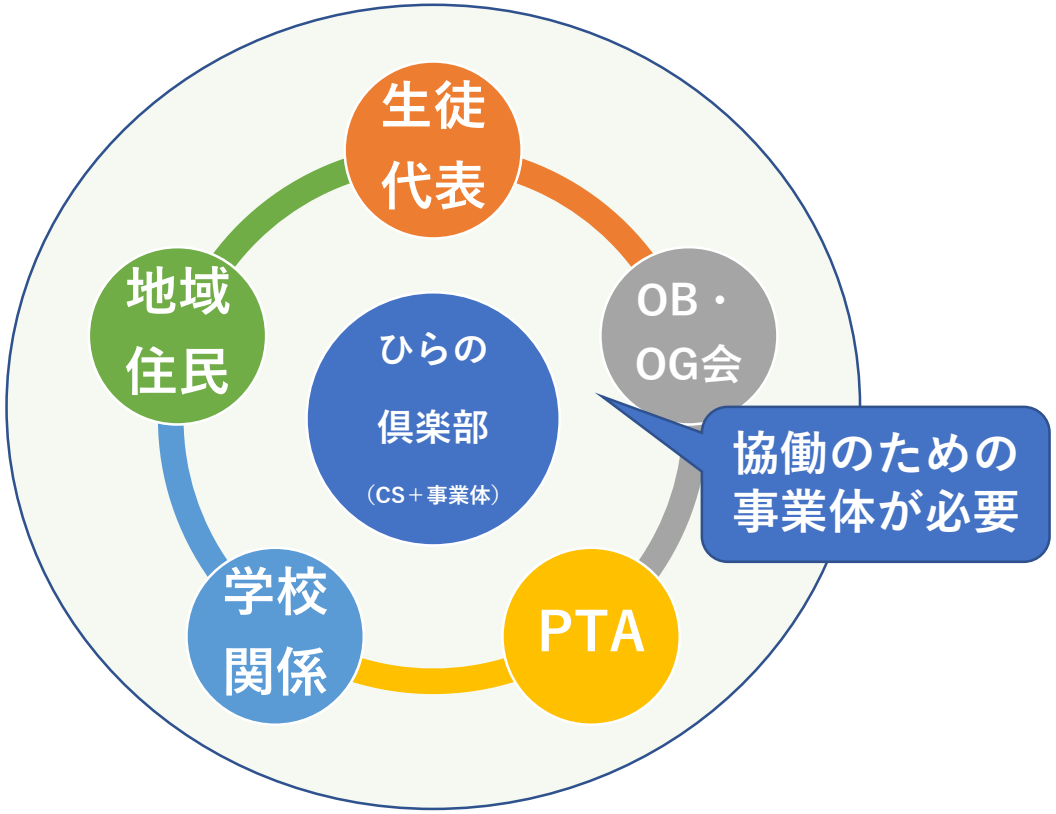
同じ目的達成のために人々が協力して働くこと
コミュニティスクール(CS)として機能する

会議体だけだと機能しない
（事業体がないと学校がすべてを担うこととなる）

ひらの倶楽部における協働のスタイル

B:協働型：collaborate

「ひらの倶楽部」がコミュニティスクール(CS)の事業体として機能する

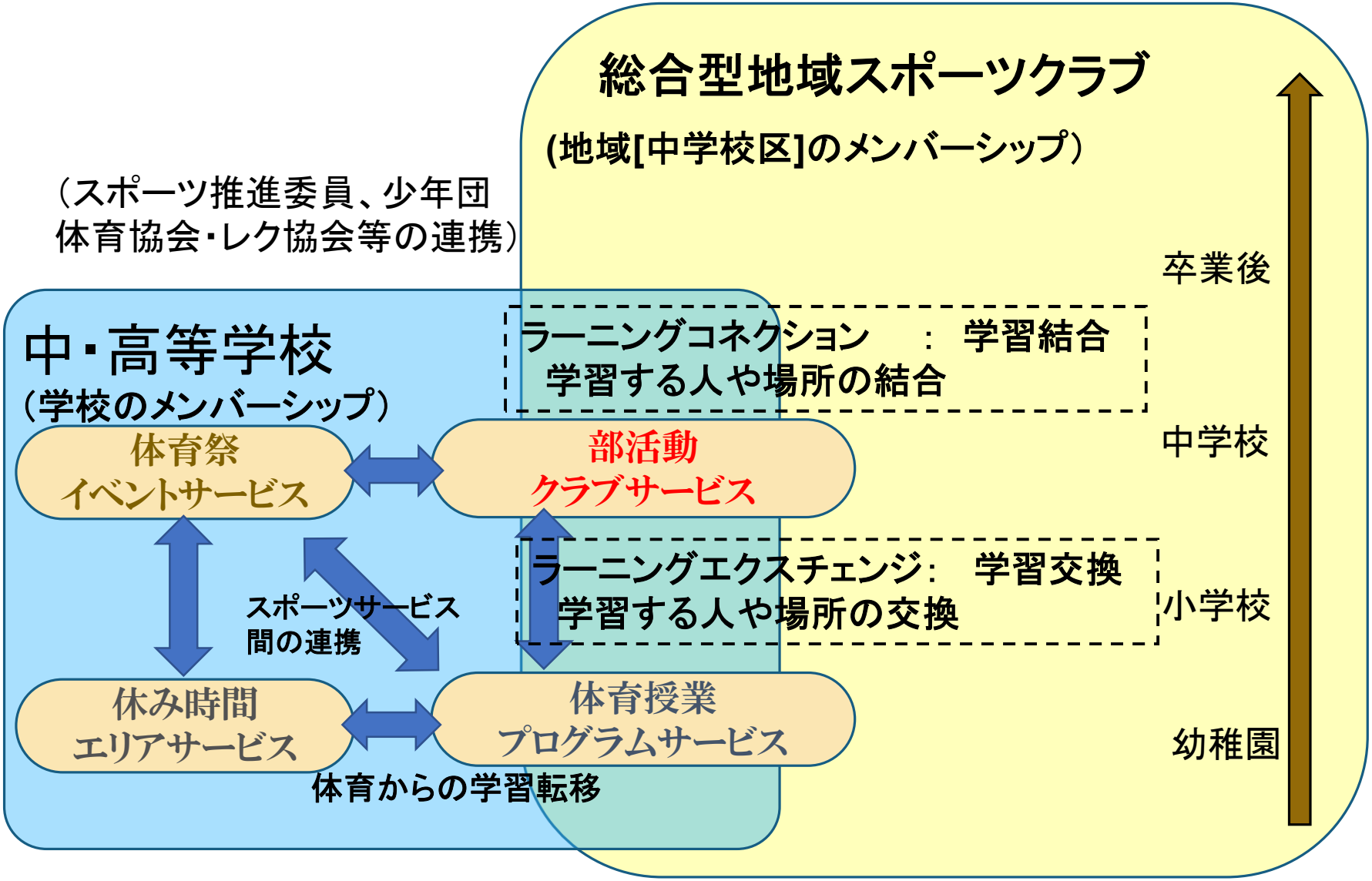


- 共通目的の共有
- 当事者意識･自分事
- やりきる責任
- アウトカムが重要

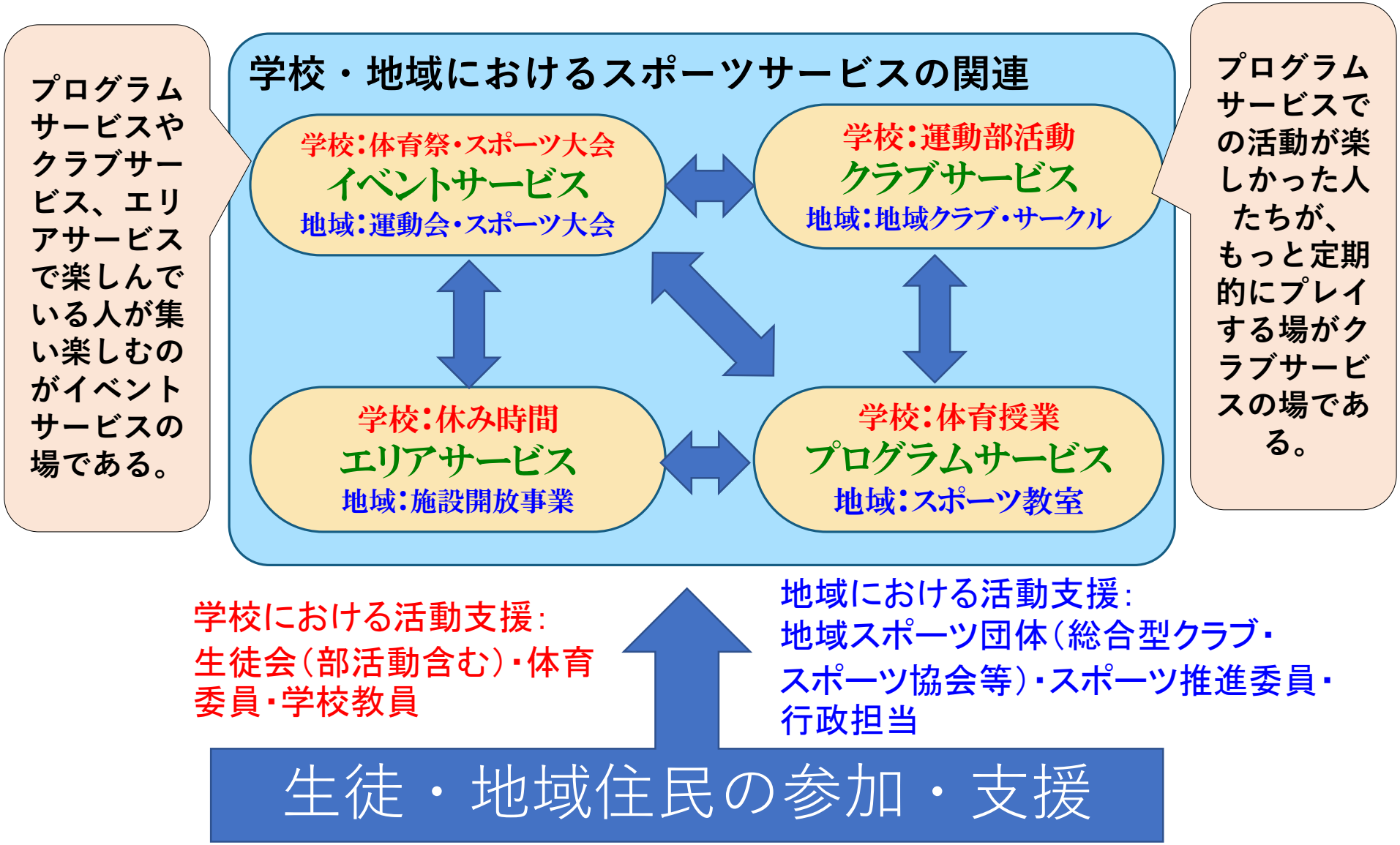
会議体だけでは学校が事業の実施母体となるため、事業体として「ひらの倶楽部」をつくることで持続可能な活動となる

大阪教育大学附属高等学校平野校舎の取り組み

- 豊かなスポーツライフの実現のためのスポーツサービスのリンケージ
- ひとが豊かに生きることの意味の確認
- 世界的な学習課題や社会の変化とコンピテンシーの育成
- 課題解決としての体育授業、生徒会改革



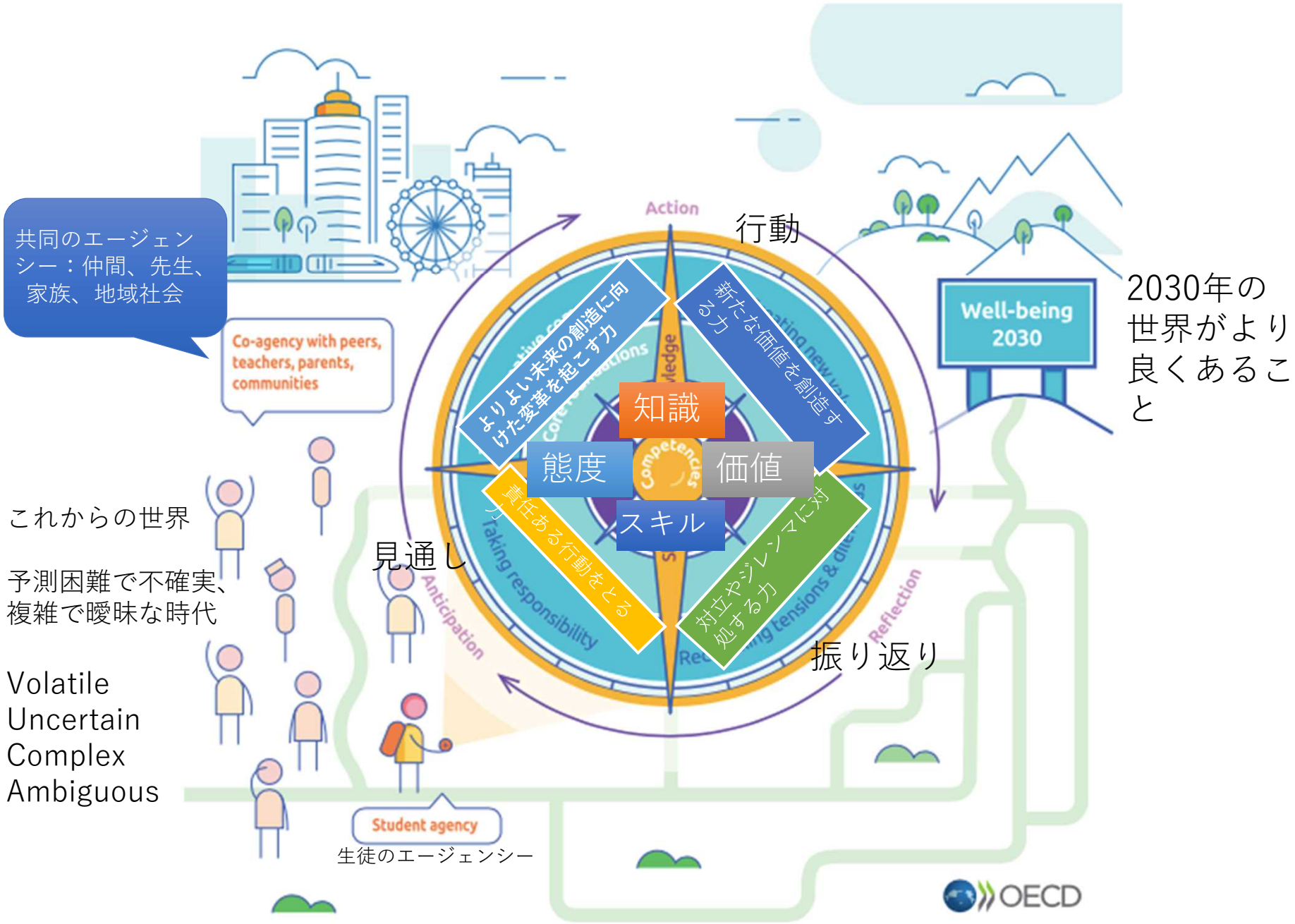
スポーツライフの学習として地域－学校が共に学ぶプラットフォーム



※　各サービスの上段は学校、下段は地域の内容を示してしいる

図3．学校・地域のスポーツライフにおける各スポーツサービスの関係

The OECD Learning Compass 2030



私たちがめざすこと！
Well-Being2030
エージェンシー
SDG s

- 2030年にみんながよりよく生きていける世界になる！
- そのためにはエージェンシーを育む必要がある
- エージェンシーを育むのは学校だけではない
- 世界の中で具体的にどんな問題や課題があるの？？

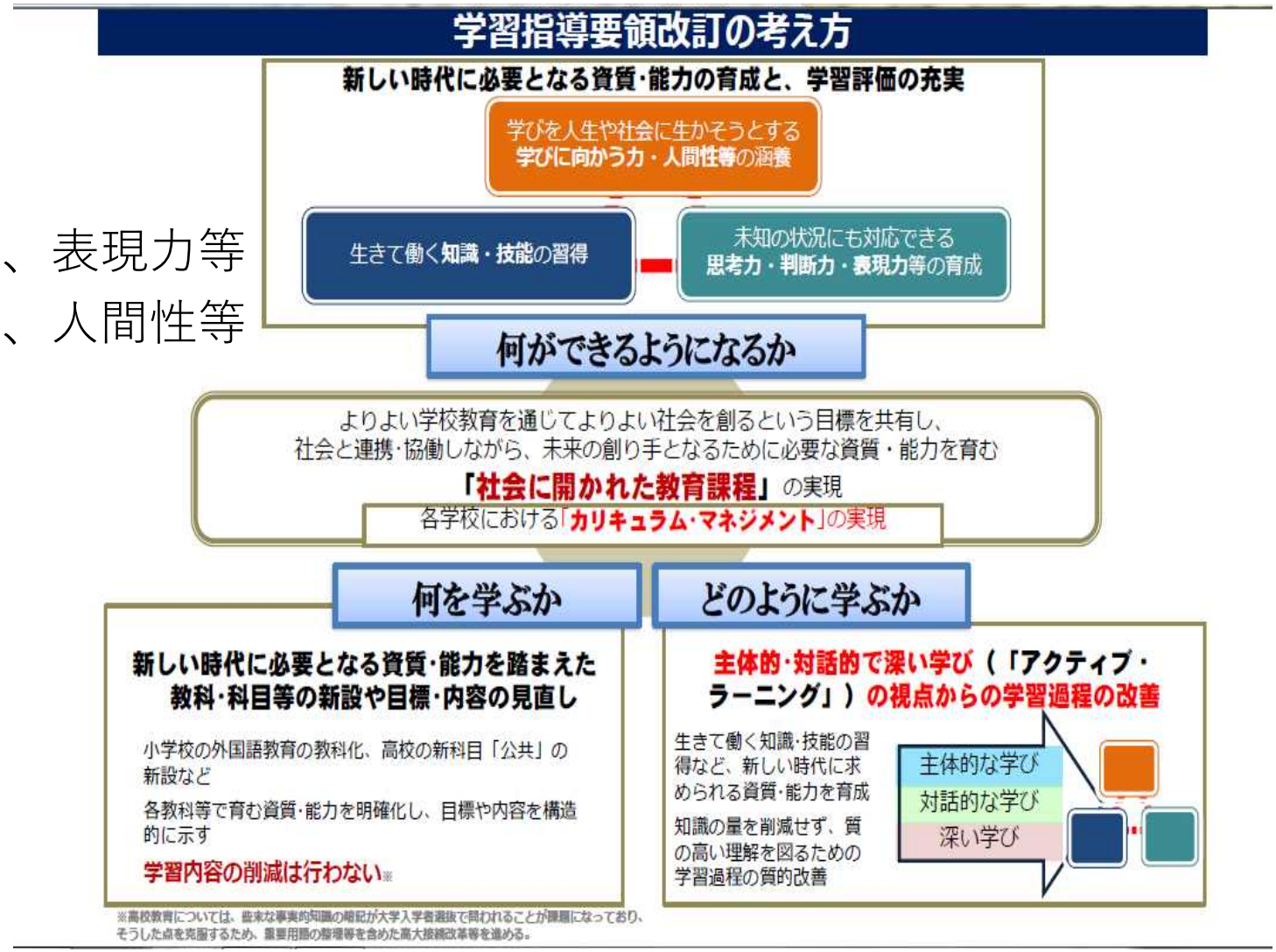
ここから出てきたのが「SDG s」

＊本校のSGH・WWLと大きく関連する

＊コンピテンシーベースの学習

＊Hirano Club(CS)と学校の協働により実現に向かう！！

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等



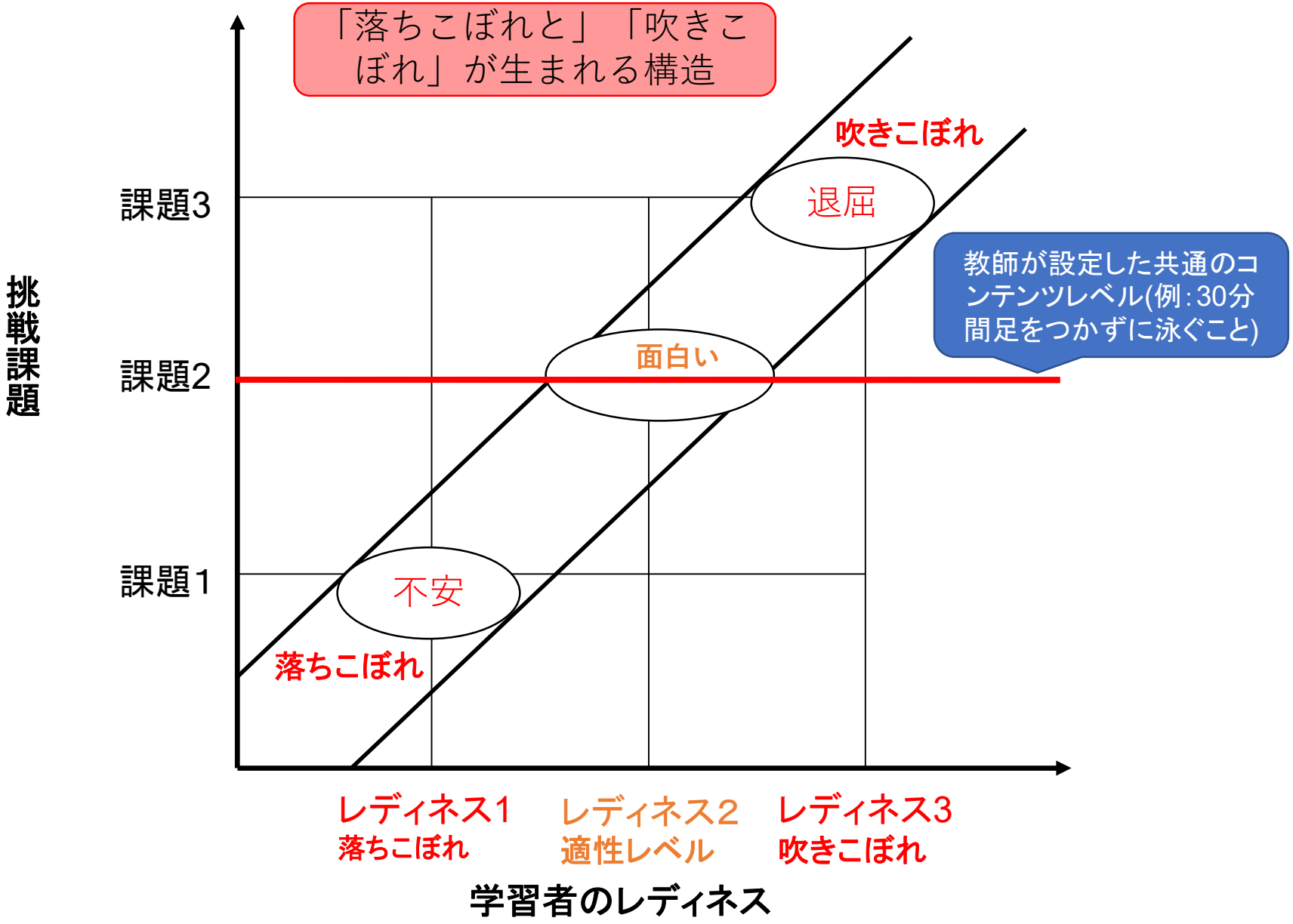


図　4. コンテンツベースの学習

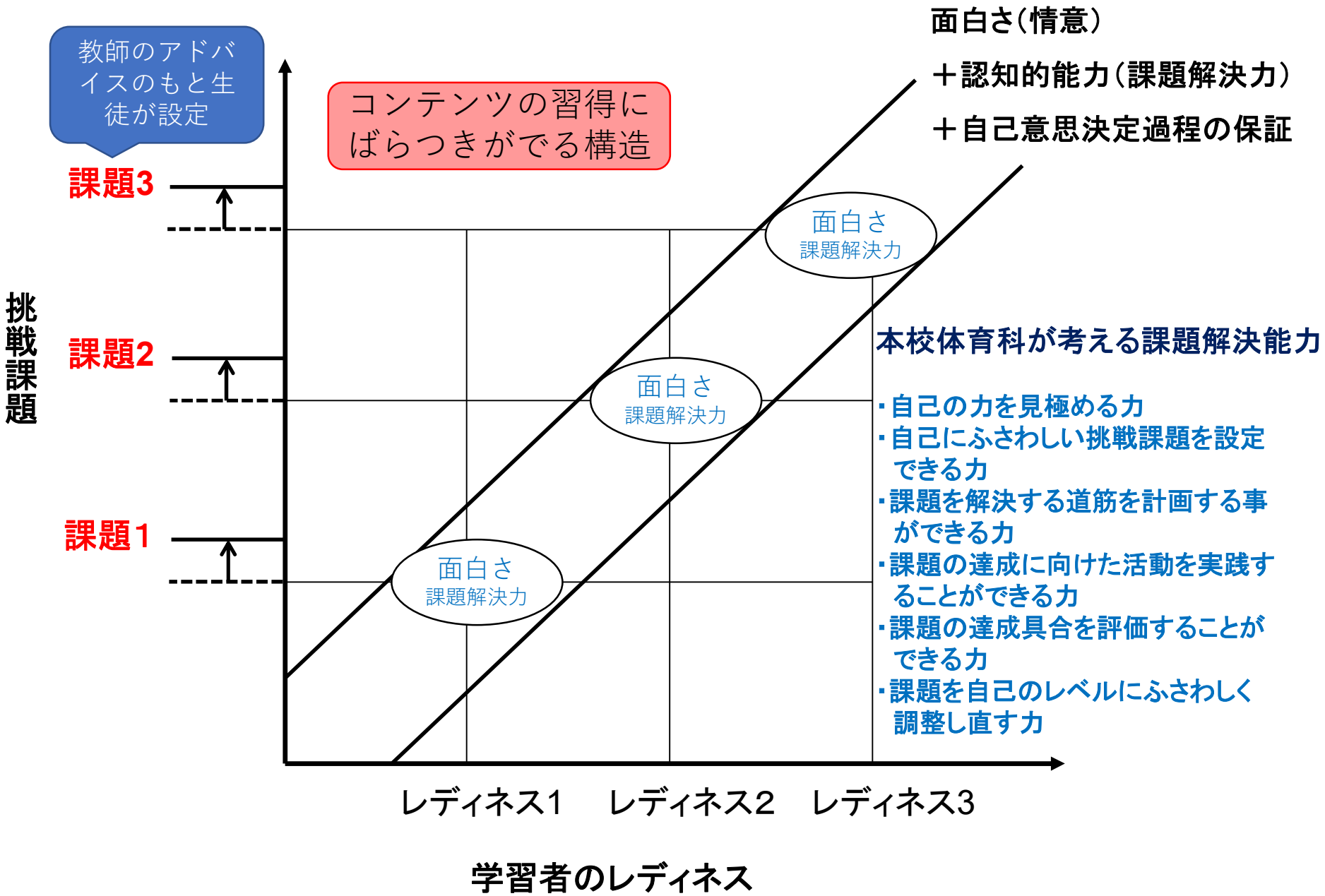


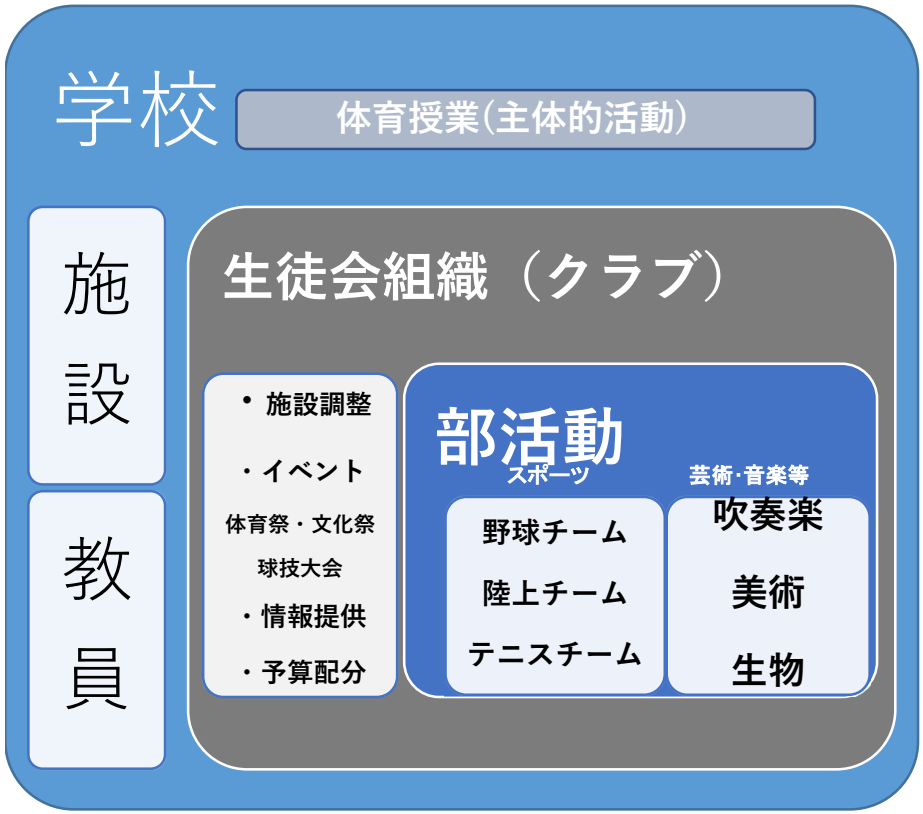
図　5. コンピテンシーベースの学習

豊かなスポーツライフの実現には、生徒会、部活動の自治･自律が必要

⇒ **部活動の自治・自律の基礎を教えるのは体育授業じゃないの？**

⇒ **生徒会の意識改革、自治・自律へ向けた指導（生徒会担当）**

部活動の教育的意義



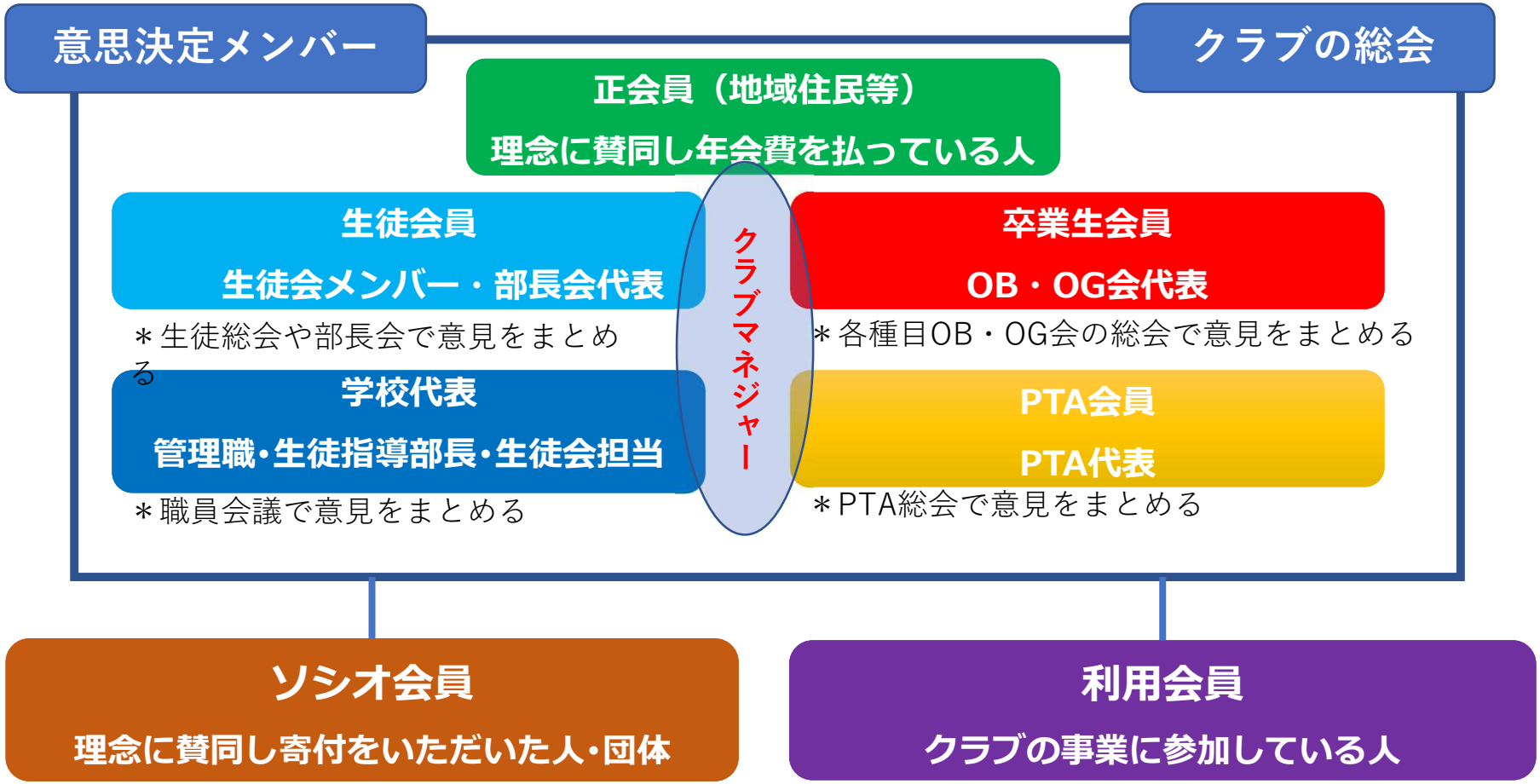
①自発的・主体的に活動する中でリーダーシップやフォロワーシップを学び、その結果、自分たちの権利としてスポーツを楽しむ(自治する)

②教員は、チームとして自治活動を基盤として、クラブ（生徒会）として自治することをサポートすることが部活指導の基本である。

③自分で考えて課題を解決することは体育の授業の中で学習させる。
主体的・対話的で深い学びがめざされる。地域部活動やスポーツの指導もこの方向となる

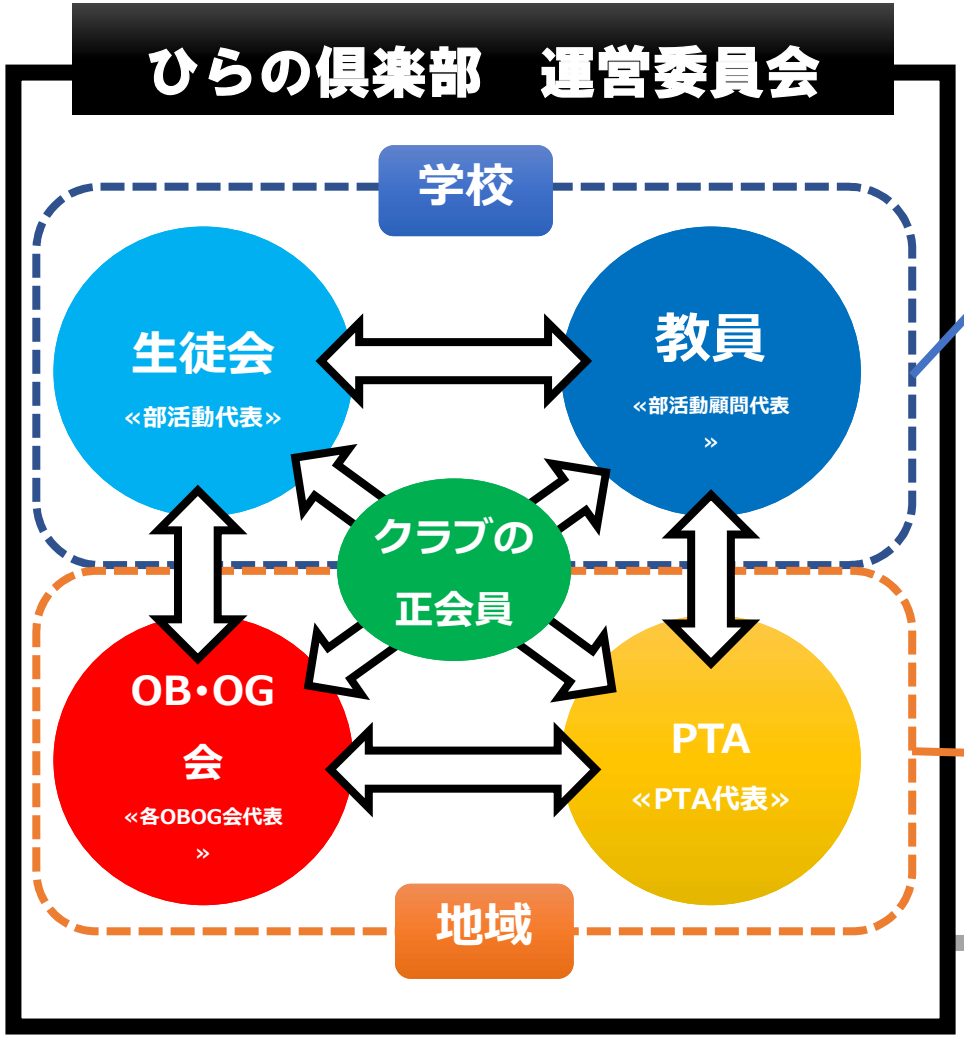
＊　クラブの中には、いくつかのチームがあり、クラブメンバーとして共存・共生をめざしている。
＊　学校におけるクラブの枠組みは「生徒会」の枠組みとなる。各部活団体はチームである。
＊　教師は、本来のクラブシステムとしての生徒会運営をサポートし、「生徒の自主的・自発的な参加により行われる運動部活動」をめざさなければならない。

ひらの倶楽部の会員構造と意思決定のあり方



社団かNPOか
それが問題だ！

≪組織図≫



校内事業

- ○ 中高合同部活動
- ○ 小学校放課後遊び教室
- ○ 部活動共通研修会

交流事業

- ○ 現役対OBOG交流戦
- ○ 地域運動会
- ○ 合同研修会

地域事業

- ○ 運動・スポーツ教室
- ○ サークル活動
- ○ OBOG交流会

事務局

≪クラブマネジャー≫

Hirano Club

ひらの倶楽部　２０２１